

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【作業学習】

#### 1. 対象 知的障害 中学部 14人

- 知的（重度）：身体誘導や具体物操作など、体験的な学習をとおして活動を分かる。  
発語がない。不快時には、物をどかす、その場から離れるなどの行動が見られる。
- 知的（軽度）：口頭指示で行動することができる。定規を使って線が引ける。  
良否判断には、チェックリスト（言葉/写真）が必要である。

#### 2. 単元名「販売会にむけてお客様に喜ばれる製品を作ろう」（全42時間）

- 1月の販売会に向けて、仲間とともにお客様に心から喜ばれる製品を作ることができる。

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・作る製品や自分の仕事が分かり、正しい手順で手早く製品を作ることができる。
思考力、判断力、表現力等	・きれいな製品を作るために、自分の仕事を工夫したり、良否を判断したりして製品を作ることができる。
学びに向かう力、人間性等	・販売会に向けて、目標数やその日の目標を目指して、責任を持って自分の役割を果たすことができる。

#### 4. 本時の目標

※「5」を単元で作成する場合は省略可能です。

#### 5. 授業展開【**本時**】・単元】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

<b>解決したい課題や問い</b>
・心から喜ばれる製品＝きれいな製品　きれいな製品はどんな製品？ （自分ならどんな/どっちの製品がほしいですか？）

<b>考えるための材料</b>
・きれいな製品、不良品の写真（選択肢）を提示する。（提示：ランダム→各製品の良品・不良品をペア） ・ワークシート。（理由が言える生徒は理由も）不良品と比べて、きれいな製品のどこがいいのか。

<b>想定される活動</b>
・同じ製品の写真が2枚あることに気付く。 ・同じ製品の写真から、良品または不良品を見つけ出す。（不良部分を指差しする/言語化する）

<b>対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）</b>
・実態別に3グループ/5～10分/気付きが薄い場合は、Tがサポート（基本は見守り姿勢/製品写真のペアリング/写真を見比べての違い/あなたならどっちがいい/なぜ？） ・重度：製品について○×を判断（教師が提示する2枚の写真から○を指差しできるようにする。） ・軽度：良否の判断とその理由を生徒同士で意見を出し合う。 （ワークシート：鉛筆立てAは、和紙と和紙の間に隙間があるからBの方がいい）

<b>学習の成果（予想される生徒のあらわれ）</b>
・心から喜ばれる製品＝きれいな製品　きれいな製品を指差しする。 ・「鉛筆立ての和紙が破けているので、こっちがいい（きれいな製品）です。」 ・生徒「わからない」、不良品を選択する→不良部分を確認し、再度良品を確認する。 ・正確に自分の仕事をする。（和紙を隙間なく貼る、線に沿って切る、和紙を破かないように両手で持つなど）